

ちば

レジャー

名物市長が駅前再開発



北小金駅 (松戸市)

東京のベッドタウンとして発展してきた松戸市のJR北小金駅。夕方、下り電車からはき出された乗客たちが南口の駅前ビル「ピコティ」へ吸い込まれていく。ショッピングモールも入る街のランドマークだ。

「ビルが建つ前は神社があったね」。近くに住む板倉徹男さん(80)が回想する。駅は板倉さんの曾祖父ら当時の地主たちが協力して1911年に開設された。駅と国道6号を結ぶ小金宿通りにはかつて宿場があり、最後の將軍・徳川慶喜も江戸と水戸の往来で水戸家専用の旅館に泊まった。今も旅館「玉屋」の建物が残るこの道の北側に鎮座したのが八坂神社だった。神社を移転させたのは、ドラ

ッゲストア「マツモトキヨシ」の創業者で、同社発祥の薬局兼住宅を神社前に構えていた当時の松本清・松戸市長だった。69年に就任するや小金地区の開発に乗り出した。人口急増期を迎え、駅真正面の神社を移して都市型の街並みをつくることを思い描いていた。

板倉さんら多くの住民は地域の守り神を動かすことに複雑な思いでいた。果たして、市長は移転の準備を進めていた73年5月に急逝した。神社は7月に移ったが、その後も跡地のオオイチョウが倒れてマツモトキヨシ1号店を直撃。不穏な空気が流れた。

空き地だったこの場所に市長悲願の再開発ビル「ピコティ」が完成したのは93年のこと。利便性は飛躍的に高まったが、板倉さんは「神社が中心から外れ、地域の結びつきは弱くなった」と話す。

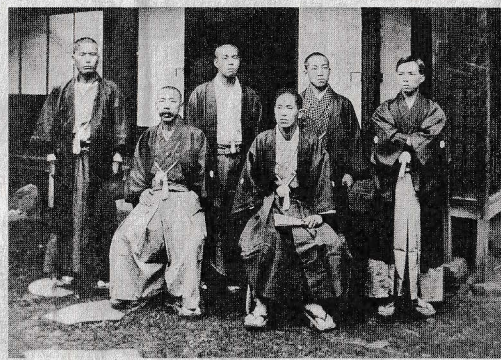
こうした状況を案じた地元有志は2003年に「小金の街をよくする会」を発足。事務局長

で東漸寺住職の鈴木悦朗さん(61)は市立小金小の児童に地域の歴史などを教える取り組みを続けている。クリスマスには子供たちが駅前に電飾で彩りを添えるなど、郷土意識が育まれるようになった。

鈴木さんは活動を通じ、小金宿通りの歩道が市長の尽力でできたことを知った。「この道を安全な形で後世に残した功績は大きい」

松本清氏が市役所に「すぐやる課」を設置して10月で50年。「市役所は、市民に役立つ、役に立つ人がいる所」。北小金ゆかりの名物市長の色あせない言葉だ。

(矢牧久明)



㊦ 小金宿通りから見た駅方面。かつて神社があった場所には商業施設と住宅が入る再開発ビル「ピコティ」(右)が立つ
 ㊦ 北小金駅の落成式に出席した地主たち。前列左が板倉さんの曾祖父の久雄さん(1911年撮影。板倉さん提供)